

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究・・・創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成 2 人格の陶冶・・・他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進・・・心身ともに健康でたくましい生徒の育成
2 現状の分析	三部制・単位制の特色を生かした「自ら選び、自ら学ぶ」「学び直しのできる」学校づくりに対しては、8割以上の保護者・生徒が肯定的に捉えている。また、「本校に入学してよかった」という生徒も9割を超えており、本校の学校運営の姿勢については概ね理解が得られており、生徒の学校生活に対する満足度も高い。 不登校経験を有する生徒に加え、発達障がい診断を受けている生徒（またはその疑いのある生徒）や外国にルーツを持つ生徒など、ますます多様な生徒が入学しており、生徒の基礎学力や規範意識とともに自己肯定感・自己有用感を養い、生きる力を身に付けさせることが求められている。
3 学校の抱える課題	・基本的な学習の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと。 ・生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと。 ・生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと。
4 今年度の具体的な重点目標	・基礎学力の育成…本校独自の教材や科目を活用し、少人数教育の特色を生かして、基礎学力の確実な定着を図る。 ・社会性の涵養…ルールやマナーを順守する姿勢や、仲間とともに生きる力を育成する。 ・キャリア支援の充実…「総合的な探求（学習）の時間」を通して、適切なキャリア教育を推進する。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価	10 成果と課題	11 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用し教材研究、教科会での振り返りによる授業改善 ①年2回「授業に関するアンケート」実施 ①ノート学習の評価と分析 ①考査情報分析（欠点者数の推移や再試結果等）	①協働的学習を取り入れたテーマをもとに年2回の公開授業週間を設定し、互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ①ICT教育機器の利用についての研修や意見交流を通して、分かりやすい授業の実践に繋げることができた。	B	▲学習支援という点で、継続的な働きかけを行う必要がある。ノート学習の指導についても、その意義を再度見直し、職員で共通理解を図りたい。生徒の実態に合わせ効果的な支援を実施していきたい。 ▲授業については、履修条件を周知徹底することでマナーや取り組み状況について改善が見られた。一方で、協働的学習の実施の困難さが見られ、段階的な発達を促す指導方法をさらに検討する必要がある。	B
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者の学校評価 ②生徒及び保護者、公開授業参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」実施と分析	②生徒及び保護者の学校評価や公開授業参観者アンケートによると、本校の少人数授業や少人数クラスに対する期待や満足度は高く、その教育的な効果を実感する感想が多い。 ②授業に関するアンケートでは、相対的に、生徒の授業への取り組み状況に改善が見られた。	A	▲ICT教育機器について、その利用について理解や意見交流ができた。授業で機器が活用できるよう研究を深めていきたい。	
	③教員の資質を高める研修の推進	③年2回の公開授業週間（他教科も参観する） ③年2回「授業に関するアンケート」実施と分析 ③ICT教育機器利用	③生徒情報を職員で共有することで、生徒理解を深め、より効果的な指導に繋げることができた。 ③ICT教育機器利用について、理解を深めることができた。	B		

進路	①CT（チャレンジタイム）を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等のアンケート	①1年次は進路ガイダンス、職業インタビュー、2年次はインターンシップ、企業・学校見学、面接指導、3年次はキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	B
	②生徒一人一人に合った適切な進学、就職指導を実施する。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、2月に面接指導と面談を行い、進路希望や進路実現のための課題について話を聞いた。また、3年次生全員に対して、面接練習を行った。	A	
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める。	③生徒及び保護者等のアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B	
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況 ①年次会等での情報共有	①機会あるごとに生活指導を実施した。校外指導（土岐市駅前）・校内指導も実施でき問題行動は減少傾向である。 ①身だしなみについては、正装の日に年次ごとに細かく指導をしていただいた。頭髪についても根気よくしどうをしていただいた。	B	B
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況 ②生徒会・ボランティア活動の状況	②生徒会役員、MSリーダーズを中心にボランティアや地域活動に積極的に参加する姿が見られた	B	
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会主事会、生徒指導委員会等での情報交換	③生徒の状況を管理職も含め、年次主任や担任、教育相談とスムーズに情報共有ができ、問題行動やいじめに発展するような事案について早期に対応し、未然防止に努めることができた。	B	
	④安心・安全な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図ると共に、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④教育相談との連携 ④関係諸機関との連携	④毎日校内巡回指導を実施できた。 ④学校生活アンケートから問題や悩みを抱える生徒については、教育相談・SCなどと連携して相談しやすい環境を作ることができ、安心・安全な学校づくりにつなげることができた。	A	
			○3年次、2年次でそれぞれ実施した外部講師による進路活動は好評だった。 ○2年次の面接指導後、OCへ参加したり、就職試験に向けての勉強をしたりする生徒が増加した。 ▲3年次生の面接指導時の身だしなみや遅刻への指導が不十分であった。卒業までに最低限のマナーや常識を身に付けさせたい。 ▲学年との連絡・連携に課題が残った。情報共有の機会を積極的に増やしたい。		
			○問題行動が発生しているが速やかに情報を共有・対応することで重大事態になることがなかった。 ▲バスの乗車マナーや駅前での行動など、公共の場でのマナーについて指導な場面が多かった。 ▲携帯電話（スマートフォン）への依存が見られる生徒が増加しており、授業中に触ってしまったり、夜遅くまで携帯を使っていることで生活リズムが乱れ、成績不振や遅刻・欠席の増加につながってしまう生徒が増えている。 ▲外国に縁のある生徒が増えた。その中には日本語が十分でない生徒・保護者もあり、意思の疎通や、規律を理解してもらうことが難しいことがあった。 ○ボランティア活動や外部の取り組みに積極的な参加がみられた。 ○発達障がいと疑われるような生徒に対する対応のしかたについて、職員研修などを通し、全職員の共通理解が図れた。		

教育相談	①教育相談・特別支援教育活動の充実と、校内の援助支援体制を整える。	①担任と生徒との面談日の設定。 ①個別の支援計画・指導計画の作成。 ①生活アンケート調査の実施分析。	①春と秋の2回、担任と生徒との面談の設定を行うことができた。 ①中学より個別の支援計画を引き継いだ生徒について、作成することができた ①6月、10月、1月の3回にわたって生活アンケートを実施し、生徒がいじめについて悩んでいないかどうかの把握に努めた。担任が聴き取りを実施し、その結果をすべての教員で共有し、速やかに対応した。	B	▲個別の支援計画・指導計画の作成について、教科担任対象生徒の状況を聞き取り、作成することができたが、それを活かすことができなかった。 ○生活アンケートを年3回実施し、即座に情報を共有したことで、生徒指導部や年次と連携がとれた。 ○職員研修により発達障がいのある生徒に対する具体的な対応策を共有することができた。 ○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行うことにより、生徒に合った対策を取ることができた。 ▲特別支援教育支援員を2名配置いただいているが、支援が必要な生徒が多く、すべての生徒への支援ができていない。また、ゼミ担任や教科担任との連携が不十分であった。 ▲いろいろな問題を抱えている生徒がいるので、すべての生徒への対応が難しい状況である。	B
	②心理検査やアンケートを実施し生徒の状況を把握する。職員の資質の向上に向けた研修を実施する	②1年次でのテストバッテリーM2+検査の実施・分析。 ②生徒の困り感に関するアンケートの実施。 ②職員教育相談研修の実施 ②特別支援教育支援員との連携	②テストバッテリーM2+の分析結果について全教員で情報を共有することができた。 ②8月に発達障がいについての職員研修会を実施した。 ②特別支援教育支援員の勤務時間と各教科担任の要請をマッチングさせるため、二週間分の勤務一覧を職員室に掲示し、教員が要請しやすい環境を作った。	B		
	③家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な支援ができる方策を考える。	③カウンセリングの実施 ③SCやSSWを交えたケース会議の実施。	③月1回の相談部だよりにより、カウンセリングの日程について周知できた。また、職員室にカウンセリング予約状況が一目で分かる工夫を行った。カウンセリング実施後は、カウンセラー・担任・関係職員とでコンサルテーションを行った。 ③SSWを交えたケース会議を行った。	A		
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送られるようにする。 ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる。	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①身体測定結果 ①食育アンケート ①食育指導	①毎月の保健だより発行に加え、換気・咳エチケット等、疾病予防の呼びかけを実施した。 ①健康診断未受診者0を目指し、指導・呼びかけを行った。(休退学除く) ①保健室利用者401件(昨年とほぼ同様)全年次において肥満の割合が高い。 ①食物アレルギーについての指導、エピペン使用のビデオ作成をし、講習会を行った。 ①毎日の給食時間を利用し、食育・食事マナーを指導した。	B	▲健康診断後の要精検者の受診を徹底できなかった。 ○授業中の保健室来室が減少した。欠席者の対応は、担任等と密に連携したい。 ▲運動不足の生徒が多い。食育と運動を呼びかけたい。 ○給食を通してコミュニケーションがとれた。 ○給食の時間に健康観察をおこなった。 ○準備運動や安全を配慮した取り組みをすることで、ケガが少なかった。 ○危機管理・防災意識の向上	B
	②安全教育の充実 ・ルールやマナーを身に付けさせるとともに事故防止を図る。	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況	②医療費申請昨年度4件→今年度7件 安全振興会申請1件 ②命を守る避難訓練を年3回にし、よ	A		

			り実践的に行った。 第3回地震の避難訓練では予告なしでおこない、どんな体勢で身を守ることができるか体験させた。		に向けて引き続き指導していきたい。 ○学校環境衛生優秀活動校に認定された。	
	③校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して、美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる。	③環境衛生検査結果 ③校内安全点検結果 ③生徒・職員へのアンケート	③教室換気の呼びかけができた。 ③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。 ③教室の汚れ落とし、ワックスがけを実施した。 ③ICT導入にともない遮光カーテン等環境整備を素早くすすめた。	A		
渉 外	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める。	①育友会と生徒が一体となり取り組む諸活動。 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布。 ①本部役員によるあいさつ運動。	①本部役員を中心とした挨拶運動を、年合計9日間取り組んだ。生徒への声かけだけで無く、異なる部の生徒の実態を知ることができた。 ①育友会役員と連携して活動できた。	A	○「朔陵祭」など、多くの会員の方がボランティアとして参加して下さった。生徒会と連携をし、新メニュー導入を行うなど、他のセクションとの連携が積極的に行えた。 ○育友会の広報誌が年2回発行され、生徒の生き生きとして活動する姿を会員に発信できた。 ○人と繋がることを意識したPTA活動をテーマにPTフォーラム活動に取り組み、その成果を発表することができた。	A
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する。	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通して、保護者同士の連携をはかる。 ②PTA活動の広報誌である朔陵だよりの充実。	②本部役員、母親委員、一般保護者、役員OBらが一体となり、両日で延べ80名程の参加があった。また、事前の打ち合わせに一般保護者も参加していただくようにし、PR活動の評価に役立った。 ②生徒の学校行事の写真を多く配置して、ビジュアルに訴える、わかりやすい朔陵だよりの作成に取り組めた。	B	○同窓会組織が自ら、効率的な組織運営が行えるようになってきた。ウェブ会議など、若い感性を活かした積極的な取り組みがなされるようになった。	
	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する。	③年間五回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく。 ③PTフォーラムの活動に積極的に取り組む。	③本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、同時開催にしより密接な取り組みが可能になった。 ③定時制高校のPTA活動の在り方にとり、文化祭を中心に独自企画を運営することができた。	A	○保護者の校外進路研修会の参加者が年々減少傾向にあったが今年度は30名を超える参加があり、活気を取り戻した。 ○次年度の本部役員を選考はスムーズに行き、旧役員全員が再任を承諾していただけた。但し、今後は会議の持ち方など、保護者の負担を極力回避する組織運営が求められる。	
	④創立10周年を終え、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく。	④同窓会組織の効率的な運営と、学校行事への参加・連携の促進。	④同窓会組織の名称を変更するなど、同窓会役員の意識向上に務めることができた。 ④遠隔地の理事が会議に参加出来るように、理事会の様子をビデオチャット方式で配信するなどの工夫がなされた。 ④卒業生と語る会の講師として、理事を派遣するなど、学校行事への関わりを深めることができた。	A		

図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る。	①生徒や教職員・各教科のリクエストを迅速に集計・対応。 ①話題の図書の情報収集	①「図書館だより」（毎月発行）「館報あざみ」（年2回）等を通じての図書啓発活動。内容面の一層の充実を図った。	A	【図書】 ○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。 ○タイムリーな企画展示ができた。 ▲昨年度よりも、図書の貸出冊数が減少した。 【情報】 ○職員の協力により、情報セキュリティの事故を起こすことなく1年間過ぎた。	A
	②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読書への興味関心を高める。	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜に行う。 ②校内読書感想文コンクール ②多読賞の表彰	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「先生のおススメ本」紹介 ②「図書委員のおススメ本」紹介 ②読書感想文・多読賞の表彰	B		
	③「朔陵祭」参加や芸術鑑賞会を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む。	③芸術鑑賞生徒アンケートの結果活用。	③図書委員会の活動 ③鑑賞作品のPRと生徒感想による振り返り	A		
	④図書館システムの構築作業を円滑に進める。	④適宜、蔵書管理のPC化への移行状況をチェックする。	④通常業務と並行して、蔵書データをPC入力した。 ④図書の貸出・返却手続きが簡素化できた	A		
	⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る。	⑤毎月のセキュリティ・チェックの実施し、不合格者には再試を課す。	⑤隔月のセキュリティ・チェックを実施した。 ⑤適宜、セキュリティポリシーの啓発活動を職員に対して行った。	A		

II 学校関係者評価 実施年月日：令和2年1月20日

- ・生徒・保護者へのアンケート結果から、「学習指導」「教職員」への肯定的な評価が8割を超えており、日々の授業の充実と、先生方が生徒から信頼されていることが伺える。
- ・生徒アンケートで、「本校に入学できてよかった」と答えている生徒が91%もいることに大変驚いた。この数値からも、東濃フロンティア高校の存在意義が見て取れる。もっと地域の人に知っていただきたい。
- ・生徒は落ち着いて授業を受けており、積極的な質問も飛び交い、参観して嬉しくなった。ICT機器も活用され、冷暖房も配備され、生徒のみさんの学ぶ環境も整ったことも嬉しく思う。
- ・校外での生活について、交通機関における乗車マナー等も向上しており、指導が行き届いていると感じている。また、地域のイベントにも生徒がボランティアとして参加しており、イベントの運営だけでなく後片付けにも自主的に加わってくれる姿に、大変好感が持てた。
- ・「部活動が活発である」と感じる生徒が6割と、他の項目に比して数値が低い。近隣の中学校でも同じような問題に直面し、活動人数が少なくなっているようであり、東濃フロンティア高校だけの問題ではないと思う。
- ・大変充実した教育が行われているのだから、「PR」にも力を入れるとよい。次年度は地域の中学生で「ボランティア部」を立ち上げる計画もあるので、高校生にも参加してもらえると、よい「PR」の場となるのではないかと。

12 来年度に向けての改善方策案

- (教務) ・基礎基本の定着を目指した授業(ユニバーサルデザイン)の推進
・「深い学び」の推進のためのICT機器の利活用推進
- (進路) ・通級による指導の実施に向けての校内体制の確立
・個に応じた進路指導のさらなる充実
・キャリアガイダンスの充実と改善
- (生徒指導) ・インターンシップ(就職体験)の効果的な実施方法の研究
・新入試制度に対応した進学指導体制の確立
・ネット犯罪・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善(規範意識の高揚)
・予防的生徒指導の研究と実践(積極的生徒指導の推進・さまざまな研修などへの積極的な参加)
- (教育相談) ・個別の支援計画の作成とその有効活用
・特別支援教育支援員と教員とのスムーズな連携
- (保健厚生) ・通級による指導等の特別な支援を必要とする生徒に対する指導についての、職員に対する研修や啓蒙
・各種検診の事後処置の徹底
・非常変災時に各自で速やかに行動できる実践力を高める
・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育
- (渉外) ・PTA活動、同窓会活動の活性化と精選。
- (図書・情報) ・図書館利用の活性化、図書貸出数の増加
・ICTの有効利用、情報セキュリティの徹底

